

令和3年度 組織・連携委員会だより

北海道PTA連合会 NO. 3

令和3年12月21日(火)発行

令和3年12月4日(土)に今年度最後の第3回委員会が開催されました。出席者が8名と少ない中での委員会でしたが、後藤委員長ごあいさつの後、予定しておりました下記の内容について、1時間半ほどにわたり、濃密な時間を過ごすことができました。

1. 令和5年度北海道ブロック研究大会札幌大会の提言発表の見通し
2. 今年度の取組や研究のまとめと次年度の方向性
3. 各地区の活動、地区研究会の交流

【後藤委員長挨拶】

コロナ禍においても、各地区P連・市町村P連・単位PTAにおいて、工夫しながら取り組まれているお話を聞くと、価値ある研究大会や研修会になっていると感じています。

今年度の委員会活動については、もっと多くの委員の方に参加いただき、各地区の状況や実践を楽しく話し合いたかったという思いです。

1. 令和5年度北海道ブロック研究大会札幌大会の提言発表の見通し
今年度及び次年度の委員会での交流・協議を通して提言校を選出していく。

2. 令和3年度組織・連携委員会 研究のまとめと次年度の方向性

(1) 活動計画

① 研究テーマ 『ともに学び、行動し、連携するPTA活動や組織の在り方』

② 研究の視点

○ 持続可能なPTA活動・組織 ○ コロナ禍の中でのPTA活動

(2) 研究内容

① 持続可能な子育て支援体制におけるPTA組織の在り方や活動の活性化へ向けた取組・改善策を引き続き探る。

② コロナ禍におけるPTA活動の推進について探る。

③ 今年度の道P南空知・岩見沢大会提言校との連携・協力を図る。

④ 令和5年度の提言を視野に入れた研究の方向性を探る。

(3) 今年度の取組

3回にわたる委員会において、各委員の所属校や地区のPTAの現状・取組等について交流をし、上記(2)研究内容(①～④)にかかわる協議を重ねた。以下に主な交流・協議内容を記す。

【○持続可能なPTA組織と改善策等】

- ・子供たちの笑顔を応援できる体制・環境づくりを一層進める。
- ・各校・各地区間での取組に差が出てきているが、PTA活動の目的は一緒だという原点を忘れてはならない。できること、やれることから取り組み、会員自身が楽しいと感じる活動を工夫していく。一例として、できる範囲での登下校の見守り活動で成果を上げている取組もある。
- ・学校(教職員)の前向きな取組をPが後押しする組織でありたい。
- ・PとTとの信頼関係の構築が持続可能なPTAの土台となる。
- ・会員数減は現実の課題で、組織の抜本的な変更が必要となっている。
- ・次年度の役員体制づくりを年度内に進め、引き継ぎをしっかりと行う。
- ・小規模・複式校の統廃合に伴い、複数校のPTAを一本化できないか検討を始めた。
- ・コミュニティ・スクールの機能を積極的に生かしていくことがますます求められる。

【○コロナ禍におけるPTA活動の推進】

- ・従来のPTA活動や学校行事等の中止・縮小など、全道的に負の影響が大きいのは確かである。地域のコミュニティとしての機能も果たしていた小中合同運動会を小学校単独で行わざるを得なかった事例もある。
- ・PTAとしての学び・活動をとめないために、中止ありきではなく、どんな形ならできるのか考えていくことが大切。(子供の笑顔と学びを支えるのが大人の責務)
- ・単P・地区Pともに、従来の組織体制や活動内容等を根本的に見直すいい機会とする。
- ・活動の意義・目的等について、学校(職員)との共通理解を深め、具体の取組についてPとTが知恵を絞ることによって相乗効果生まれる。PTA主体で、運動会観覧席を改善した事例もある。
- ・学校や関係機関との連携をきめ細かく行い、感染対策を徹底しながら内容・方法等を工夫して活動を計画・実施していく。(オンラインでの会議・研修や授業参観、参加形態の工夫、会場の分散等)
- ・家庭のオンライン環境にかかわり、教育委員会・学校・PTAが連携した取組を進めることが望ましい。(タブレットの持ち帰り活用、経費の補助等)
- ・PTA予算について、PTA活動はもとより、学校の教育活動におけるコロナ感染防止対策として無理のない範囲で有効に活用したい。
- ・市P連として、新型コロナウイルスに対する活動指針等を作成し全体に示した。
- ・ICT機器の活用に堪能なPTAの人材を発掘していくことも必要である。
- ・感染への不安を抱く会員がいるのも当然である。参加への同調圧力が働かないように配慮すべきである。

(4) 成果と課題

① 成果

ア 時代の変化や各地区・各単Pの実情を踏まえ、持続可能なPTA組織の体制づくりや運営等に関し、様々な工夫・改善を図る動きが始まっている。

イ コロナ禍にあっても、オンラインを積極的に活用するなど、内容・方法等を工夫して活動する取組が進んでいる。

② 課題

前例踏襲ではなく社会情勢や各地区・各単Pの実情に即したPTA活動の継続・改革・創造。

(5) 次年度の方向性

- ① 今年度の成果と課題を踏まえ、ウイズコロナでの挑戦・体験・学びを止めないPTA活動の推進、そしてポストコロナでの進化したPTAの姿についてさらに究明していく。
- ② 現研究テーマ・視点・具体的な取組について継続研究とし深化を図る。
- ③ 令和5年度札幌大会での提言について協議を継続し、提言校の選出・発表依頼をする。

3. 各地区の活動、地区研究会の交流

- ・PTA活動が徐々に動き始めている。(南空知)
- ・児童数の減少に伴い、R5には小・中各1校に統合される。(オホーツク西部)
- ・小中一貫全国サミットがありCSは進んでいる状況である。PTAの活躍の場を意識している。CSとPTAの違いを明らかにし取り組むことが大切。(石狩管内)
- ・働き方改革について校長と話した。(先生方の負担軽減について)(オホーツク東部)
- ・継続してやりましょう。母親研修会・市P連研究大会は半数にして実施(274名)
「アンガーマネージメントZOOM研修」「キャンドルナイト」実施(旭川市)
- ・「ゲーム依存症についての研修」200名の参加 子育て研修内容をYouTube配信
- ・市教委との教育懇談会開催、市教委8名 市P連8名来年度から2回実施予定(小樽市)

*委員の皆様には、お忙しい中、委員会へのご出席、ご意見をいただき、ありがとうございました。また、各地区での活動もありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

*「委員会だよりNO. 3」は道P連のホームページ「組織・連携委員会だより」に掲載されています。